

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	226	人	国語B	226	人
② 数学A	226	人	数学B	226	人
③ 理科	226	人			

5 留意事項

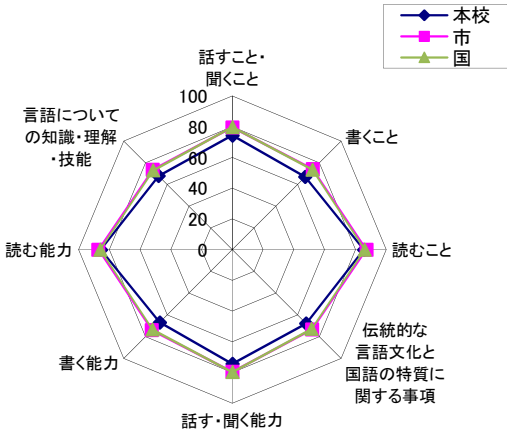
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

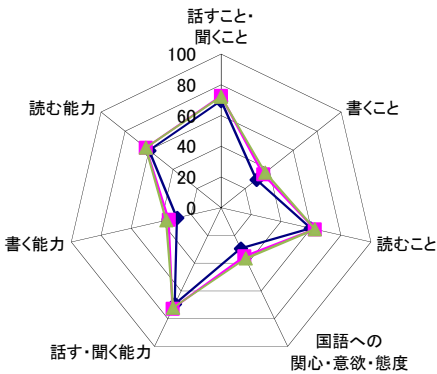
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.3	79.5	79.7
	書くこと	66.9	74.1	73.6
	読むこと	85.6	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.9	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	74.3	79.5	79.7
	書く能力	66.9	74.1	73.6
	読む能力	85.6	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	67.9	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.5	72.8	72.2
	書くこと	29.4	35.0	36.7
	読むこと	59.8	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	29.4	35.0	36.7
	話す・聞く能力	69.5	72.8	72.2
	書く能力	29.4	35.0	36.7
	読む能力	59.8	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は大切である」「読書は好きである」「国語の授業で学習した内容は将来役立つと思う」という項目は全国平均と肩を並べており、国語に対する意識は低くない。「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに理解しながら読んでいる」「最後まで解答を解こうとした」の点も全国平均にかなり近い。
●「話の組み立てを工夫して話をしようとしているか」という点では、県平均・全国平均よりも5ポイントほど劣っている。また「授業内容を理解している」という点も県平均・全国平均よりも10ポイント程度劣っている。授業で理解できない生徒が多いので、話したり、聞いたりという活動を多く行い、聞いたことが生かされたと自信を持てるような授業の工夫をしていきたい。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

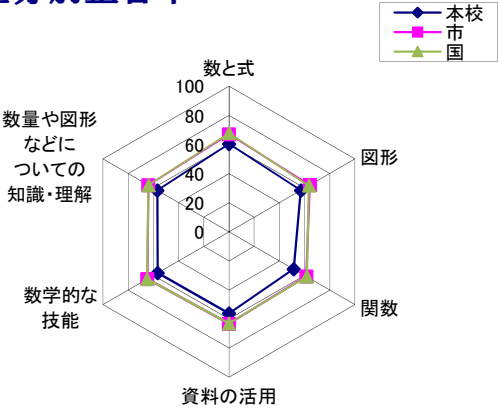
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○資料を活用して話したり、効果的な資料を作成して話すという点では正答率が県平均・全国平均にかなり近い。 ●「聞き手を意識して分かりやすい語句を選択して話す」という設問の誤答率・無回答率が高い。	・資料を活用しながら、相手に分かりやすい言葉を用いながら話そうとする授業を多く設け、相互評価も加えながら、適切な語句を用いた話ができるように改善していきたい。
書くこと	●全般的に正答率が低い。特に「伝えたい事実を明確に書く」「資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く」「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」が県平均・全国平均よりも5ポイント以上低い。	・最後まで解答しようという意識を持っているので、相手にわかるように表現できるように、推敲するだけでなく、他の人の表現も参考に出来るような授業を実施していきたい。
読むこと	○「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」「文章から適切な情報を得て、考えをまとめる」「表現の工夫について自分の考えをもつ」という点では、県平均・全国平均と同じまたは少しだけ高い。 ●選択式の問題の正答率と比べ、記述式の問題の正答率は低い。	・読み取った内容をリライトするなどし、読み取った内容を記述して解答できるように改善を図りたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「手紙の書き方を理解して書く」「代表的な古典の作品に関心を持つ」という点については、正答率が平均よりも高い。 ●漢字の読み書き、文法に関する問題は正答率が低い。	・相手に分かりやすくなるように伝えるという観点を重視し、適切な漢字や文法を用いた話をしたり、文章を書いたりする機会を増やしたい。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

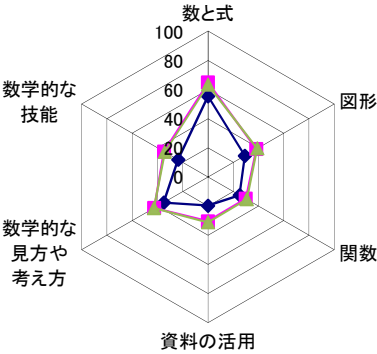
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	60.4	67.0	67.7
	図形	57.0	64.1	63.4
	関数	51.3	61.4	61.7
	資料の活用	56.1	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	56.6	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	56.9	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	55.5	64.8	63.2
	図形	29.2	38.3	39.0
	関数	25.0	29.9	30.7
	資料の活用	19.7	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	35.1	42.6	42.8
	数学的な技能	23.7	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○数学の重要性を理解し、日常・社会で活用しようとする生徒が多い。公式やきまりの根拠まで理解しようとし、授業のノートづくりなど意欲的に取り組む生徒が多い。
●解答を言葉や数、式を使って説明する問題に対して、最後まで解答を書こうとする生徒が少ない。話したり、聞いたりという活動を多く行い、自身の考えを出力できるような授業の工夫をしていきたい。

★指導の工夫と改善

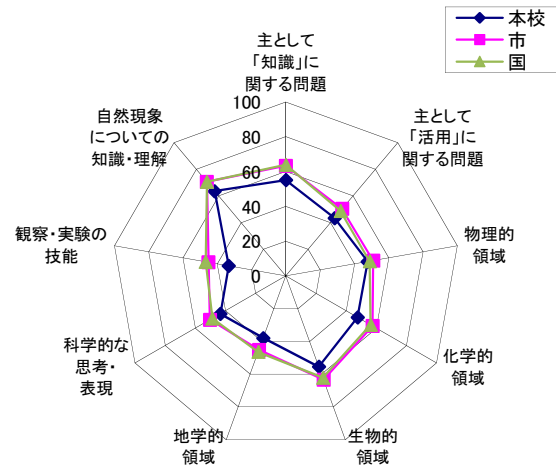
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の乗法についての問題では県、全国と比べると0.2ポイント、0.5ポイント低いものの、無回答率が0%である。 ●数学的な技能を評価する問題では、県・全国平均と比較しても全問で正答率が下回った。	・正負の数の四則計算、文字の入った式の計算など、基本的な計算の技能が低いことがわかる。小数や分数が混じった計算を苦手としている生徒が多いため、授業の中でも計算方法の復習等を行う機会を設ける。
図形	○同位角についての問題に関しては県平均を1.5ポイント、全国平均を2.4ポイント上回った。図形の対称性の問題に関しても県平均と同等の正答率になっている。 ●平行四辺形になるための条件に関する問題では、県平均を12.5ポイント、全国平均を14.9ポイント下回った。	・三角形の合同条件や平行四辺形になるための条件などの知識が正しく覚えられていないため、特に短答式の問題で正答率が低い。記述ができていないため、自身の考えを文章にする場面を授業で設けていく。
関数	○中心角の大きさと半径の関係を問われる問題では、県平均を0.2ポイント上回った。 ●関数の意味を理解しているかを問う問題で県平均を6.9ポイント、全国平均を8ポイント下回った。比例の式から座標を求める問題では全国平均を16.7ポイント下回った。	・まず関数とはどういうものなのかを理解している生徒が少ない。関数の分類の問題だけを見ても、全国平均に比べ10%以上も正答率が低い。算数の時点で比例・反比例の内容の定着が不十分であり、問題を理解できずに解答できない生徒が多い。まずは基本的な問題で、関数とは何かをつかみ、式やグラフなどで関係を表すことを理解させる必要がある。
資料の活用	○度数分布表を読み取って階級の度数を求める問題では県・全国平均と同等の正答率になっている。 ●割合を求める式を答える問題では、県平均を9.1ポイント、全国平均を11.2ポイント下回った。資料の傾向をとらえ、グラフを用いて説明をする記述の問題では県平均を10.6ポイント、全国平均を11.8ポイント下回った。	・割合を求める式を答える問題は小学校の内容でもあるため、算数の段階でつまづいている生徒が多いことがわかる。また、記述式の問題では無回答率が45.1%で、ほぼ半数の生徒が書けていない。図形の単元同様、説明や証明といった文章で答える問題に対して、時間をかけて学習をしていく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	55.1	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	43.5	50.3	48.8
分野等	物理的領域	47.7	50.9	48.9
	化学的領域	47.5	57.5	56.2
	生物的領域	55.4	63.4	62.2
	地学的領域	37.9	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	43.5	50.3	48.8
	観察・実験の技能	33.4	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	63.7	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○理科が大切と考える生徒が70%、理科の内容がほぼ理解できると回答した生徒も70%いる。理科で学習したことが将来役立つと回答した生徒も60%、学習した内容を日常生活で活用しようと考えている生徒が50%を超え、理科への意欲が高いことがうかがえる。
●観察実験の回数が少ないと回答している生徒が多く、実験観察の機会を増やすことが課題と考える。また、記述式の問題に対して苦手意識をもつ生徒が全国平均よりやや多く、書く意識を高める授業の工夫をしていきたい。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	○音の波形をもとにして音の高低を考える問いでは、正答率が全国平均より10.3%高い。 ○オームの法則を使って抵抗の値をもとめる問題では、正答率が全国平均より3.2%高い。 ●スイッチの入り切りによる電磁石の磁界の変化の理由を記述式で答える問いでは、全国平均より12.6%低い。	・オームの法則を使って抵抗の値を求める問題練習を難易度を上げながら繰り返し行った成果が表れたと考える。 ・記述式の問題では無回答率が43.8%もあり、現象について言葉で説明する機会を多く設定していく。
化学的領域	○動物の消化のしくみについての問いは、ほぼ全国平均と同じである。消化酵素のはたらきについて7割の生徒が理解している。 ●見出した問題をもとに、適切な課題を設定するという「活用」に関する記述式の問いでは、全国平均より11.7%低い。	・動物分野の学習には興味・関心の高い生徒が多く、実験にも意欲的に取り組み、理解を深めていた。生徒の興味を喚起する導入の工夫をこれからも行っていきたい。 ・記述式の問いに無回答率が43.4%もいる。質問の意味を理解できないために、解答できないことも考えられる。出題の仕方に慣れるために、さまざまなタイプの問題を解く機会を増やしていきたい。
生物的領域	○溶解度の違いによって物質を見分ける問題では、ほぼ全国平均と同じ正答率である。 ●特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と溶媒それぞれの質量を求める問いでは、全国平均より正答率が15.8%低い。	・実験結果と関連させて理解していた生徒が、多いようである。今後も、実験のねらいと結果をはっきりさせ、そこから考察をさせるような授業を実施していきたい。 ・計算をとまなう問題に対して、自分ではできないという先入観を持っている生徒が多く、無回答率も26.5%もいる。特に小数の割り算ができない生徒もあり、そういう生徒には、基礎的な計算技能の習得の場が必要である。
地学的領域	○気圧の変化と菓子袋の膨らみに関する問いでは、全国平均とほぼ同じ正答率である。 ●天気図から風力を読み取る問いでは、全国平均より正答率が14.2%低い。	・上昇する飛行機内での映像を用いて学習したことが、定着の一因と考えられる。映像を用いて、五感にうったえかける場面を授業の中に継続して取り入れていきたい。 ・天気記号の読み取りが定着していない。間違いやすい記号を混同していると考えられるので、その点をもう一度教え直す。その後、問題練習を繰り返させる。

宇都宮市立若松原中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自己について、「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する」などの質問に対しての肯定的回答の割合が全国平均、栃木県平均を上回っている。部活動などを通して自信をつけている生徒がいることが推測できる。

○自分で計画を立てて勉強をしている生徒が県や全国平均を上回っている。今後も計画的に学習に取り組めるよう支援をしていきたい。

○数学や理科の授業に対しては内容が分かるという肯定的意見が県、全国を上回り、その勉強が好きだという意見も、県や全国を上回っている。今後も学習意欲が向上されるよう、きめ細かい学習支援を行いたい。

●学校の規則を守っていますかとの質問では、県や全国平均を下回る回答であった。今後道德の時間などを利用し、規範意識を高める授業を展開したい。

●家庭生活で、4時間以上「平日テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしている」「テレビゲームをしてる」生徒が栃木県や全国平均を上回っている。「家の人と学校での出来事について話しますか」という設問には話をしている割合が県や全国を下回っている。今後保護者会や、学年通信を通して、ゲームやTVの時間を減らし、家族の対話を増やすように協力を依頼したい。